

008 最終章・千歳～小樽から帰途へ

● 9月19日(木) 千歳川の鮭溯上・千歳空港のお土産～マオイの丘 天気・晴

- ・皮肉にも今日から天候が安定し、晴天が続くという。
- ・朝5時半起床、外はまだ薄暗い。さすが道の駅「花ロードえにわ」だけあって、駐車場には昨夜泊まったと思われる車が数10台も止まっている。ご夫婦で来ているらしい倉敷ナンバーの軽自動車もある。昔は良く見たが、軽自動車で移動している方は最近あまり見かけなくなり珍しい。
- ・私は朝食後、帰りの準備を始めた。背中に陽を浴びてのんびりと窓の遮光やベッドの敷物などの修理をしているうちに9時を過ぎたので、そろそろ毎年恒例の千歳空港へお土産を買いに行こうか。
- ・空港のお土産コーナー、毎年来ていてほしいの場所は覚えてしまったので買い物は早い。朋子にユーカラ、直人と恵子にぬいぐるみなど、文子さん池内さんにハスカップジャム、マリア館関係やいろいろな関係者にお菓子をいっぱい買い込んで買い物終了。毎年北海道山紀行の支出の中で一番多いのがこのおみやげ代で、お土産を買いに来ているようで嫌になる。おみやげの買い物が済めばあとはもう帰るだけ。今夜は道の駅「マオイの丘」に泊まる予定だが、そのまえに、鮭の溯上が見られるかもしれないと思い道の駅「サーモンパーク千歳」に寄った。
- ・千歳川の川底を横から眺め、鮭が登ってゆくのを見ようと、「鮭のふるさと館」に入館し(¥800)千歳川の川底に作ってある観察窓にへばりついたが、水が濁っていて遠くが良く見えず、見えるのは窓のそばにうようよ群れをなして泳いでいる「うぐい」ばかり。



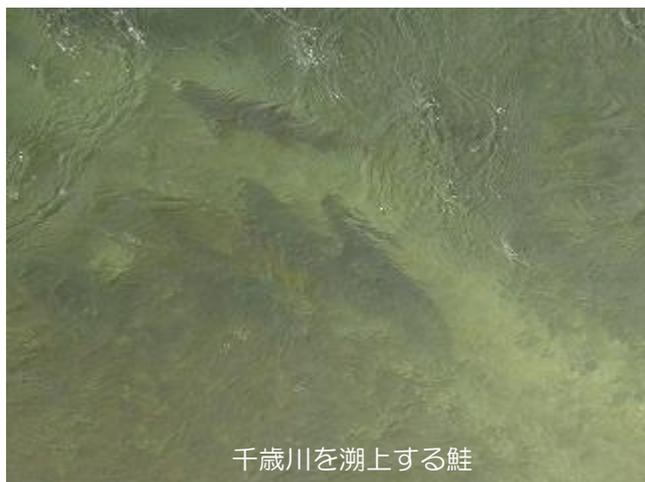
千歳川の底は「うぐい」がいっぱい

- ・仕方なく館を出て、橋の上から千歳川を見てみた。インディアン水車の堰の深みに、溯上中の鮭が数10匹が行き場を遮られ、うようよ泳いでいるのが見えた。まだ時期が早いのか、川を埋め尽くすように溯上する鮭の群れは見られなかったが、それなりのものが見られたようで、一応満足した。



千歳川の

インディアン水車



千歳川を溯上する鮭

- ・道の駅の公園で昼食をとったが、遠足だろうか幼稚園や小学校の生徒さんがいっぱい来ていて賑やかだった。温泉ラフォレにゆっくり浸かってから今夜の宿泊地、道の駅「マオイの丘」に向かった。

・狙うはレストラン「美夕」のぎゅうぎゅう丼。ところがレストラン「美夕」が数日前に秋メニューに変わったばかりで、ぎゅうぎゅう丼は無い。おまけに閉店が早くなりラストオーダーが5時だと！しかたなく4時半にレストランに入った。客は誰もいない。申し訳ないみたいだ。私一人借り切りで生ビールジョッキに秋メニューのピフテキ丼セットで最後の夜を祝った。

・レストランを出て車に戻ったのが6時前。もうあたりはうす暗く日記を書くのも途中でやめた。隣には和歌山ナンバーのでかいキャンピングカーが止まり、中にはでかいテレビがついていて老？夫婦がくつろいでいる。6時半就寝。空には満月・仲秋の名月が輝いている。快晴！

● 9月20日(金) 小樽からフェリーで帰途に 天気・晴

・4時起床、4時半に小樽港を目指して出発。あたりは真っ暗。昨夜の満月はどこへ行ったのだろうか。道の駅「マオイの丘」からの274号線(三川国道)は暗黒の直線道路。たまに車と行き交う程度で孤独なドライブが続く。時間に余裕があるので時速60kmの安全運転。こんなにゆっくりでも車がないので誰にも文句を言われずのんびりと札幌を目指して走った。札幌に入ると夜が明けはじめ、車と信号が多くなりマイペースでは走れない。2時間かかって小樽港に無事到着した。

・まだ薄暗いがまず朝食。運河の端の市場「鱈友朝市」の前にある飯屋へ。「みさき」と「のんのん」が並んでいるが、今日は「のんのん」に入った。一番安い「三食さしみ定食」(850円)を食べたがあまり旨くなかった。隣の「みさき」にすれば良かったかな。市場を見て回り店を出たら、サラリーマンらしい男女数人が朝食に入って行った。



・フェリー乗り場に戻って乗船待ち。乗船予定時刻が9時45分だからまだ3時間近くある。紅葉の北海道を楽しみに来る車は多いだろうが、この時期北海道から本州へ向かう車はどれくらいいるのだろうか？周りにはそれらしき車はまだ数台しか見られない。待ち時間が十分あるので、フェリーターミナルで時間をつぶしたり、車の改造をしたり・・・今朋子が榛名に来ており、明日榛名へ寄って、明後日朋子に乗せて伊勢原へ帰るので、現在助手席にセットしているいろいろな機材を取り除いて助手席を確保しなければならない。意外に簡単に整備完了した。

・9時45分乗船開始。オートバイが10数台先に乗船し、そのあとから車が乗船するが40台あるだろうか？今日は自衛隊の車もないし、船はガラ空きだろう。

・予定通り10時30分、ドラの音が響く中、整列して手を振る職員たちに見送られて船は静かに岸壁を離れ出港した。薄日が差し風も無く穏やかで良い天候だ。



焼き鳥にビールを飲みながら、「また来年も来られるかな」と思いつつ離れて行く小樽の街を感慨深く眺めた。酔いがまわり船室(S-2/97)で横になった。目が覚めると船がかなり揺れている。強風で海が若干荒れているらしい。



マリンバの演奏



目が覚めたら海が荒れていた

・カフェロビーで日記を書き、写真の整理をして過ごし、ビデオシアターでマリンバとピアノの演奏を楽しんだ。さらに映画「E.T」を見て、けっこう退屈することなく夕方を迎えた。マリンバの演奏は面白かったし、映画「E.T」は大昔見たことがあるが、筋書きをすっかり忘れていて、断片的記憶が繋がって楽しかった。夕食はカフェロビーで食べたが、いつもは空席を探すほど、飲んだり食べたりしゃべったりしている客で一杯なのに、今夜は私一人！ なんと寂しい船なんだ。

「食堂の準備が出来ました」とアナウンスしているが、客がいるのかな？ 私が心配することないか。

夕食をコーヒーを飲んで締めて7時にベッドに入った。船は相変わらず揺れている、大したことは無いが。



ビデオシアター

● 9月21日(土) 新潟上陸～榛名へ 天気・快晴

・4時過ぎ起床。海は静かだが外は暗黒の闇だ。顔を洗いぶどうパンと野菜ジュース、牛乳で朝食をすませた。乗船客がざわざわ動き始めた。意外に結構乗っていたな。定刻の6時に新潟港フェリー岸壁に接岸し無事上陸した。乗船車が少ないので、下船に時間がかからず、すぐに下船できた。フェリーターミナルには寄らずそのまま真っすぐ亀田インターから高速へ入り、時速80~90kmでゆっくり榛名を目指して走った。天気は快晴、気温23℃で実に爽やか。エアコンをつけず窓をいっぱいにあけて風を楽しみながら走った。ゆっくり走っているのに車がどんどん追い越して行くがマイペースだ。前橋インターで高速を下りて榛名へ。

10時過ぎに榛名のマリア館に無事到着。義母と朋子に会い4Fの部屋で昼食の食卓を囲んだ。



新潟港に入ってきた

完